



入中魂

【校訓】強く 正しく 美しく

【学校教育目標】夢に向かって たくましく よりよく生きる生徒

【学校経営目標】入中魂『強く 正しく 美しく』の育成

～才能は鍛え磨き、他のために役立ててこそ光る～

令和8年9月16日 文責：山田 亘

生徒・保護者・本校職員を対象に1学期末（7月）に実施した「令和8年度教育活動アンケート（学校生活アンケート）」の結果をお知らせします。内容を見ると生徒や保護者の皆様から、ほぼ全ての設問で肯定的な回答をいただきました。いただいた御意見をもとに集計結果を考察し、2学期に向けた取組をまとめましたので、御確認下さい。

中学校としては、今後も「基礎・基本の徹底と協働的な学びによる資質の習得」「人格の形成を目指したたゆまぬ努力の励行」ができる学校を目指し、様々な教育活動に取り組んでいきたいと思ひます。

入野中の「よさ」と考えられる事柄

①教員の高い伴走力と生徒を認める承認行動

設 問	生徒		保護者		教職員	
	肯定的回答	否定的回答	肯定的回答	否定的回答	肯定的回答	否定的回答
先生は、あなたの良いところを認めてくれる。	97.2	2.8	80.7	4.8	95.4	4.6
先生は、あなたが困っているとき相談にのってくれる。	94.9	5.0	80.6	4.9	93.5	6.5

②タイムリーで透明性の高い情報発信と保護者連携

設 問	生徒		保護者		教職員	
	肯定的回答	否定的回答	肯定的回答	否定的回答	肯定的回答	否定的回答
学校は学校だより、学年だより、ホームページ、さくら連絡網などを通して学校の情報を発信している。	—	—	96.7	3.3	—	—
家庭では、授業等を参観したり、行事等に協力したりしている。	—	—	90.4	9.6	—	—

①の結果から、教師の肯定的な働きかけが生徒の97.2%に届いており、圧倒的な信頼関係が見られました。また、保護者の肯定率も80.7%と高い数値を示しました。ここから「教員からの承認・称揚の言葉が生徒たちに強く届いている」「教師・生徒間の強い信頼関係が構築されている」ことが読み取れただけでなく、それが保護者の皆様にも認識されていることが分かりました。これは、教室や廊下での何気ない会話や、困りごとに対する初期対応の迅速さと手厚さが皆様の大きな信頼を得た要因ではないかと考えております。普段の取組が認められていると考え、今後も継続していく励みになりました。反面、保護者の否定的回答4.8%を捉えると、生徒の「よいあらわれ」を保護者の皆様まで届けきれていないことがうかがえました。2学期以降も面談や「あしあと（日記）」での文書連絡等を通じ、生徒の成長を各家庭とさらに共有できるようにしていきたいと思ひます。

教員側の「生徒の困り感に対応できていない」という自己評価が6.5%存在し、担任業務や教材研究の多忙化が顕在化しました。迅速な対応体制を維持するため、生徒指導面での校内連携の深化や本校で行っている「トリオ研修」の質的向上が重要ではないかと省察しております。上記の結果に満足することなく、否定的回答が0%になるように、今後も職員一丸となって努めてまいります。

②の情報発信については肯定的な回答が96.7%に達しており、情報発信に対して非常に高い評価・満足度が得られています。また「家庭の参観・行事協力」についても肯定的な回答が合計90.4%と大半を占めるものの、否定的な回答が9.6%含まれており、わずかに不満・課題を感じている層が存在します。「開かれた学校」の具現化に向け様々な工夫を今後、模索していきます。



入野中の「改善が必要」と思われる事柄

①自主的な「家庭学習（宿題以外）」の習慣化

設 問	生徒		保護者		※教職員	
	肯定的回答	否定的回答	肯定的回答	否定的回答	肯定的回答	否定的回答
あなたは、家で宿題以外の勉強をしている。 ※教職員の設問文は「家庭学習の方策を助言している」	71.7	28.3	45.4	40.0	86.7	13.3
先生は、分からないところや質問に丁寧に答えてくれる。 ※教職員の設問文は「個に応じた指導を行っている」	96.1	3.9	65.3	20.1	84.6	15.4

②間違いを恐れずに自分の意見を伝える「主体的な表現力」

設 問	生徒		保護者		※教職員	
	肯定的回答	否定的回答	肯定的回答	否定的回答	肯定的回答	否定的回答
あなたは、まちがいをおそれずに自分の考えを相手に伝えたり発言したり表現している。 ※教職員の設問文は「生徒の間違いを受容し、考えを発言させたり表現させたりしている」	76.2	23.8	55.7	29.8	96.1	3.9

生徒の約7割は「宿題以外の勉強もやっている」という意識を持っている反面、保護者の4割が「取り組んでいない」と認識しており、この数値は保護者の否定派が全設問中で最も表面化している数値です。このことを重く受け止め、「具体的に何をどう勉強すればよいか」を明確化させ取り組ませるよう指導・助言をすることで学習習慣の定着を図ることが最大の改善課題であると考えられます。御家庭でもお子さんが学習に向かう環境づくりや声掛け、気分転換の指南等の支援をお願いします。

次に、生徒の7割以上が「自己表現の機会」や「自己肯定感を高める取り組み」の重要性を意識して行動できていることがわかりました。一方で、生徒の約2割、保護者の約3割が「失敗への怖さ」や「予期不安」を抱えています。

「間違えるのが怖い」「うまくいかなかったらどうしよう」という不安を解消し、ありのままの自分を受け入れる自己受容を育むため、体育大会や合唱コンクールなどの大きな行事を活用します。

「結果」や「正解」を求める指導から、挑戦の過程や個々の意見そのものを承認したり、価値づけたりする評価を心がけます。具体的には、発言しやすい学級の雰囲気づくりをしたり、小グループでの対話の機会を増やしたりし、「失敗しても大丈夫」と思える心理的安全性を担保します。家庭とも連携しながら、自信を持った言動ができる環境を整え、生徒が安心して主体的に自己表現できる土台づくりを推進してまいります。

入野中のいじめに対する取組について

①いじめ防止と安心できる居場所づくり

設 問	生徒		保護者		※教職員	
	肯定的回答	否定的回答	肯定的回答	否定的回答	肯定的回答	否定的回答
あなたには、学年や学級、部活動など、学校に安心できる場所が一つはある。 ※教職員の設問文は「安心できる場所を提供している」	94.4	5.6	77.1	8.3	92.6	7.4
先生は互いに認め合う雰囲気づくりをとおし、いじめが起きにくい環境をつくらうとしている。 ※教職員の設問文は「環境づくりに努めている」	95.5	4.5	78.4	7.1	96.3	3.7

若者の SNS を介したトラブルが頻発する中、アンケート結果からは、約 95%の生徒が「学校での居場所」や「いじめが起きにくい温かい雰囲気」を実感していました。また、困りごとの相談対応においても（前頁）皆様から高い信頼を得ていることが確認できました。今後も、個別的な声掛けやフォロー、校内連携体制の強化を継続し、「校内に居場所がない」と感じる生徒（約5%）をゼロにすることが目標です。すべての生徒の安心・安全を守るため、学校でも御家庭でも「小さなサイン」を見逃さず、連絡を取り合うことで早期発見・個別ケアを目指します。保護者の皆様と力を合わせてお子様を温かく見守る体制を整えてまいります。

※表内「設問」は生徒への設問文、100%に満たない保護者の数値は「無回答」